

日商簿記1級

平成24年度（2012年度）試験向け「改正論点」レジュメ

平成24年2月9日、日本商工会議所より、「商工会議所簿記検定試験出題区分表」の改定が公表され、「総記法」が1級の出題区分として明示されました。今回の改定を機に総記法が出題される可能性は十分にありますので、注意が必要です（3級で出題されたことのある分記法も併せて確認が必要となります）。とおるシリーズ改訂四版及びサクッとわかるシリーズ改訂四版につきましては、今回の改定内容が書籍に反映されておりません。これらの書籍をご利用のお客様は、本レジュメをご活用いただければ幸いです。

なお、「中小企業の会計に関する基本要領」についても出題区分に追加されましたが、出題の可能性が低いため、説明は割愛させていただきます。

総記法

重要度 ★★

1 総記法とは

総記法とは、商品を仕入れたときは**商品勘定の借方に原価**で記入し、これを販売したときは**商品勘定の貸方に売価**で記入する方法をいいます（売っても仕入れても、商品売買に関する取引は、**すべて商品勘定**で処理します）*。

そのため、前T/Bの商品勘定は、借方残高にも貸方残高にもなることがあります。

・期中処理

(1) 購入時

(借) 商 品 ×× (貸) 買 掛 金 ×× ……原価

(2) 販売時

(借) 売 掛 金 ×× (貸) 商 品 ×× ……売価

* 商品売買について1つの勘定科目（商品）を用いて処理する方法です。

・返品・値引の処理

(1) 仕入返品・値引

(借) 買 掛 金 ×× (貸) 商 品 ×× ……原価

(2) 売上返品・値引

(借) 商 品 ×× (貸) 売 掛 金 ×× ……売価

2 総記法の処理

以下の数値例で総記法の処理を見ていきます。

(Ⅰ) 商品勘定が借方残高だった場合	(Ⅱ) 商品勘定が貸方残高だった場合												
〔前提条件〕 期首商品棚卸高：200円（原価） ①当期商品仕入高：600円（原価） ②当期売上高：500円（売価） 期末商品棚卸高：400円（原価）	〔前提条件〕 期首商品棚卸高：200円（原価） ①当期商品仕入高：600円（原価） ②当期売上高：900円（売価） 期末商品棚卸高：80円（原価）												
<期中仕訳> ①仕入時 （借）商 品 600 （貸）買 掛 金 600 ②販売時 （借）売 掛 金 500 （貸）商 品 500	<期中仕訳> ①仕入時 （借）商 品 600 （貸）買 掛 金 600 ②販売時 （借）売 掛 金 900 （貸）商 品 900												
商品ボックス	商品ボックス												
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">期首 200（原価）</td> <td style="width: 50%;">売上高 500（売価）</td> </tr> <tr> <td>当期仕入600（原価）</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="background-color: #f4a460;"></td> <td style="border-left: 1px solid black;">} 前T/B残高300</td> </tr> </table>	期首 200（原価）	売上高 500（売価）	当期仕入600（原価）			} 前T/B残高300	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">期首 200（原価）</td> <td style="width: 50%;">売上高 900（売価）</td> </tr> <tr> <td>当期仕入600（原価）</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;">} 前T/B残高100</td> <td style="background-color: #f4a460;"></td> </tr> </table>	期首 200（原価）	売上高 900（売価）	当期仕入600（原価）		} 前T/B残高100	
期首 200（原価）	売上高 500（売価）												
当期仕入600（原価）													
	} 前T/B残高300												
期首 200（原価）	売上高 900（売価）												
当期仕入600（原価）													
} 前T/B残高100													
前T/B	前T/B												
商 品 300	商 品 100												

ここで、前記の商品勘定に期末商品棚卸高（貸方）を原価で付け足したボックス図を描いてみます。すると、(Ⅰ) (Ⅱ) のいずれのケースでも、貸方が飛び出た形になります。

(Ⅰ) 商品勘定が借方残高だった場合	(Ⅱ) 商品勘定が貸方残高だった場合																
商品ボックス	商品ボックス																
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">期首 200（原価）</td> <td style="width: 50%;">売上高 500（売価）</td> </tr> <tr> <td>当期仕入600（原価）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="border-left: 1px solid black;">} 期末 400（原価）</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;"></td> <td style="background-color: #f4a460;"></td> </tr> </table>	期首 200（原価）	売上高 500（売価）	当期仕入600（原価）			} 期末 400（原価）			<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">期首 200（原価）</td> <td style="width: 50%;">売上高 900（売価）</td> </tr> <tr> <td>当期仕入600（原価）</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;"></td> <td style="border-left: 1px solid black;">} 期末 80（原価）</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black;"></td> <td style="background-color: #f4a460;"></td> </tr> </table>	期首 200（原価）	売上高 900（売価）	当期仕入600（原価）			} 期末 80（原価）		
期首 200（原価）	売上高 500（売価）																
当期仕入600（原価）																	
	} 期末 400（原価）																
期首 200（原価）	売上高 900（売価）																
当期仕入600（原価）																	
	} 期末 80（原価）																

このとき、貸方が飛び出た部分が**商品販売益**の金額になります。

なぜなら、もし商品ボックス図の売上高が売上原価で記入されていれば、当然ボックス図の貸借は一致するはずですが、つまり、「貸方が飛び出ているのは売上高と売上原価の差（商品販売益）」となります。これはボックス図の貸方の上下を入れ替えてみると、よくわかります。

(I) 商品勘定が借方残高だった場合	(II) 商品勘定が貸方残高だった場合																
商品ボックス	商品ボックス																
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">期首200 (原価)</td> <td style="width: 50%;">期末400 (原価)</td> </tr> <tr> <td>当期仕入</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">600 (原価)</td> <td style="text-align: center;">売上原価</td> </tr> <tr> <td>商品販売益100</td> <td></td> </tr> </table>	期首200 (原価)	期末400 (原価)	当期仕入		600 (原価)	売上原価	商品販売益100		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">期首200 (原価)</td> <td style="width: 50%;">期末80 (原価)</td> </tr> <tr> <td>当期仕入</td> <td style="text-align: center;">売上原価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">600 (原価)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>商品販売益180</td> <td></td> </tr> </table>	期首200 (原価)	期末80 (原価)	当期仕入	売上原価	600 (原価)		商品販売益180	
期首200 (原価)	期末400 (原価)																
当期仕入																	
600 (原価)	売上原価																
商品販売益100																	
期首200 (原価)	期末80 (原価)																
当期仕入	売上原価																
600 (原価)																	
商品販売益180																	
} 売上高500 (売価)	} 売上高900 (売価)																

以上のように考えて商品販売益を算定し、借方を商品勘定として決算整理仕訳を行います。この結果、上記のボックス図の貸方に実際には期末商品原価が入っていないので、商品勘定の残高が期末商品原価を表すことになります。

(I) 商品勘定が借方残高だった場合	(II) 商品勘定が貸方残高だった場合				
<決算整理仕訳>	<決算整理仕訳>				
(借) 商 品 100 (貸) 商品販売益 100	(借) 商 品 180 (貸) 商品販売益 180				
後 T / B	後 T / B				
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: right;">商 品 400</td> <td style="width: 50%; text-align: left;">商品販売益 100</td> </tr> </table>	商 品 400	商品販売益 100	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: right;">商 品 80</td> <td style="width: 50%; text-align: left;">商品販売益 180</td> </tr> </table>	商 品 80	商品販売益 180
商 品 400	商品販売益 100				
商 品 80	商品販売益 180				

総記法の商品販売益の計算

商品ボックス図の貸方に期末商品原価を入れると、貸借差額が商品販売益となり、その金額で、「(借)商品××(貸)商品販売益××」の決算整理仕訳を行います。

(I) 前T/B商品が借方残高

$$\text{商品販売益} = \text{期末商品棚卸高} - \text{商品 (前 T / B)}$$

(II) 前T/B商品が貸方残高

$$\text{商品販売益} = \text{期末商品棚卸高} + \text{商品 (前 T / B)}$$

次の資料にもとづいて、総記法と三分法の場合における、(1) 期中取引の仕訳を行い、(2) 決算整理前残高試算表(一部)を作成し、(3) 決算整理仕訳を行い、(4) 決算整理後残高試算表(一部)および(5) 損益計算書(売上総利益まで)と貸借対照表(一部)を作成しなさい。

【資料】

- (1) 期首商品：1,000円
- (2) 期中取引：
 - ①商品8,400円(原価)を掛けで仕入れた。
 - ②商品300円(原価)を仕入先に返品した。
 - ③仕入先から100円の値引きを受けた。
 - ④商品7,560円(原価)を10,800円で掛けで売り上げた。
 - ⑤得意先から商品(売価800円、原価560円)が返品された。
 - ⑥得意先に200円の値引きを行った。
- (3) 期末商品：2,000円(棚卸減耗および商品評価損は生じていない)

《解答》

・総記法	・三分法
(1) 期中取引の仕訳	(1) 期中取引の仕訳
① (借) 商品 8,400 (貸) 買掛金 8,400	① (借) 仕入 8,400 (貸) 買掛金 8,400
② (借) 買掛金 300 (貸) 商品 300	② (借) 買掛金 300 (貸) 仕入 300
③ (借) 買掛金 100 (貸) 商品 100	③ (借) 買掛金 100 (貸) 仕入 100
④ (借) 売掛金 10,800 (貸) 商品 10,800	④ (借) 売掛金 10,800 (貸) 売上 10,800
⑤ (借) 商品 800 (貸) 売掛金 800	⑤ (借) 売上 800 (貸) 売掛金 800
⑥ (借) 商品 200 (貸) 売掛金 200	⑥ (借) 売上 200 (貸) 売掛金 200
(2) 決算整理前残高試算表	(2) 決算整理前残高試算表
<u>決算整理前残高試算表</u> (単位：円)	<u>決算整理前残高試算表</u> (単位：円)
商品 800	繰越商品 1,000 売上 9,800 ⁰³⁾
	仕入 8,000 ⁰²⁾
(3) 決算整理仕訳	(3) 決算整理仕訳
(借) 商品 2,800 (貸) 商品販売益 2,800 ⁰¹⁾	(借) 仕入 1,000 (貸) 繰越商品 1,000
	(借) 繰越商品 2,000 (貸) 仕入 2,000
(4) 決算整理後残高試算表	(4) 決算整理後残高試算表
<u>決算整理後残高試算表</u> (単位：円)	<u>決算整理後残高試算表</u> (単位：円)
商品 2,000 商品販売益 2,800	繰越商品 2,000 売上 9,800
	仕入 7,000

